

令和7年度 第3回北九州市社会教育委員会議(要旨)

1 日 時:令和7年11月7日(金) 10:00~12:00

2 場 所:生涯学習総合センター 3階ホール

3 出席者:委員 他 12名
事務局 総務市民局長 他 15名

4 議題、議事の概要

(1)総務市民局長あいさつ

(2)議題

- ① 議長・副議長の互選について
- ② 北九州市生涯学習推進計画(令和6年度評価について)
- ③ 次期北九州市生涯学習推進計画について
- ④ 部活動地域展開について

5 主な質疑応答、意見等

議題①議長・副議長の互選について

委員による互選の結果、議長に野依智子委員、副議長に山田明委員、大河内哲子委員が選出された。

議題②北九州市生涯学習推進計画(令和6年度評価について)

事務局:《事業について説明》

委員: 17 ページ No.54「コミュニティ・スクール事業」について、国型のほうの32校はホームページか何かで見られるか。

事務局: 市ホームページ等での公表というのは今のところ行っていない。

議長: 女性の社会教育人材の育成について、6年度は0名だったが日帰り研修だったのか。また、市民カレッジは十数年前は社会教育、生涯学習に関する基礎講座のような内容で市民センターの女性の館長たちがかなり受講していたが、現在の講座内容及び館長の受講者数はどうなっているのか。そこと、女性リーダー研修の参加者が減っているということが少し連動しているのではないか。

事務局: 県内の研修は日帰り、昨年度は中止となったが、今年度は19名参加があった。市民カレッジは館長も受講しているが、一般参加者が増加傾向であり、基礎的内容

からスタートしている。

議 長： 研修は泊まりがけで実施することで交流やネットワーク形成がされ、地域での社会教育実践に生かされていくという流れにもなっていると思う。今後泊りがけでの交流の機会を検討していただきたい。

事務局： 今後庁内で検討させていただきたいと思う。

委 員： 8ページの市民センタークラブについて 100%順調とある一方、市民センター利用率は低下していると聞いているが、その辺りどうなのか。
また、今年度から営利目的でも市民センターを利用できるようになったが利用率アップにつながるのか。

事務局： 直近の利用状況は令和 6 年度で施設の平均が 26.6%、利用人数は令和5年度が 319 万人、令和6年度は 339 万人で、約 20 万人利用が増えている。
多目的の利用については今年 4 月からスタートしており、半年間の利用状況を集計中。事前登録は 170 件を超えるくらいで、今までは高齢の方が主に利用される状況だったが、若い方や全世代の方が入ってきていただくきっかけになっているのではないかと考えている。

委 員： 生涯学習推進コーディネーター配置事業について、全館ではなくて 39 館というのは、何か意味があるのか。利用率が少ない所に配置したのか。

事務局： コーディネーターについて、特段何か条件を設けているわけではなく、それぞれの市民センターに来た方を登録している。できるだけ多くの館を目指しているが、なかなか人材がいない。

委 員： 市民カレッジとともに市民センター講座の受講者が減少している。報償費の削減が大きな原因であるが、講座の計画が大切で、単発的ではなく継続的にやらないと人材は育たないのではないか。
また、クラブ活動も減少しているが、区の担当者はどのように助言しているのか。
併せて「地域・子ども交流事業」では参加人数を限定して子どもたちが参加しにくい現状があるが、区として何か助言しているのか。

事務局： 市民センター館長研修を年間 10 回程実施し、経験等に基づく情報の共有や外部講師を活用している。

委 員： 区の対応を教えてほしい。
また、参加したくてもできない子どもに対して対策が必要ではないか。

事務局： 区と情報共有しており、区ごとに研修を実施している。参加しにくいお子様については検討課題として今後取り組んでいく。

議長： 参加できないお子さんというのはどういう背景なのか。

委員： 講座を行う部屋によっては人数制限があり、QRコードでの申し込みでは5分10分で埋まってしまう。できるだけ多くの子どもたちが参加できるような体制をとってほしいので、そのあたりの助言もしていただきたい。

委員： 11ページの「子育てネットワークの充実」について、子育てサポーターの登録者数が減少しているが、原因・理由は何か。また、子育てサポーターリーダー登録者数の目標は何人か。

事務局： 減少理由は時間的な都合や家庭事情など様々な要因である。目標人数は未設定である。

委員： 地元の地域イベントで中学生がボランティア活動をしており、非常にいい取り組みなので市全体に広がればいいと思う。

委員： 7ページの「学びから活動への仕組みづくり」の人材マッチング事業について、当初は区の市民センター館長会議などで何度も説明があったが数年経過するうちに気持ちが薄れている。館長たちへの説明を徹底し、該当者をバックアップする体制が必要ではないか。

事務局： 精査して対応していきたい。

議長： 皆さんの意見を今後の取り組みに生かしていただきたい。
大変順調という項目についてはなぜ順調なのかを分析し、各区でその取り組みができないか検討していただきたい。

議題③次期北九州市生涯学習推進計画について

事務局： ≪計画について説明≫

議長： 計画のポイントについてももう少し説明をお願いします。

事務局： 社会の変化が速いので、羅針盤的な大枠を念頭に直近5年間を目標に計画を立て、見直しは随時行う。数値も大事だが、数値として表せない成果についても取り入れる形でのビジョンとさせていただく。

事務局： 次期推進計画ビジョンは現状の課題を踏まえ進めていきたい。具体的な取組・施策については予算編成中で未定だが方向性は3点ある。

1つ目は、DXやICTを活用した参加しやすい環境整備、及び関心の高いコンテ

ンツ等内容の充実を考えていきたい。

2つ目は、地域の支え手不足解消のために、学びの場を提供し、若者参画を促す環境づくりをしていきたい。

3つ目は、生涯学習施設 11 カ所の利用率向上へ環境整備を進めたい。

委員： 次期計画は羅針盤的な方向性を示す点が大きなポイントだが、推進計画なので検証がとても重要。数値データと共に、参加者の記述的意見を共通書式で蓄積したものを作成するのが有効ではないか。検証はある程度充実させていただきたい。

事務局： しっかり対応したい。

議長： 質的な成果の検証方法を具体的に示していただきたい。

委員： 若者ボランティアについて、何か具体的なイメージがあるか。
また、市内で具体的事例があるか。

事務局： 今後具体化していく。

事務局： 市民センターで小中学生中心のボランティアグループがいろいろできている。
これを全市的に広げていくための仕掛けを考えていきたい。

委員： 自校区では中学生ボランティアが地域行事に参加している。起業祭ではお化け屋敷を企画しているので事例として紹介した。

議長： 地域ごとの好事例を市全体に広げる仕組みが必要である。若者を取り入れるのはとても大事。

委員： パブリックコメントの年内実施について、市民センターでの対話会等の予定があれば伺いたい。

事務局： パブリックコメントに関して、今のところ市民センターでの説明は検討していない。

議長： パブリックコメントを得た上でそれをどう検討していくのかも重要と考える。何か分かり次第共有をお願いします。

議題④部活動地域展開について

事務局：〈計画について説明〉

委員： 現場の状況を補足する。専門外だがとりあえず部活を持っている指導者が半数以上であり、外部講師に頼る状態である。少子化の影響で部員が極端に少ない部も

あり、周囲の学校と合同で試合に出るような実態があった。指導が熱心すぎて疲弊しているので、なんとか休ませたいという顧問もいる。

また、卓球クラブ設立の相談があったが、校舎内の場所によっては機械警備や個人情報取り扱い上、外部利用が難しい。

課題は指導者確保と活動場所の確保である。

事務局： 校舎内利用は個人情報やセキュリティの関係上難しい面があるが、部活動の受け皿としてそこが使っていた場所を地域クラブが優先的に利用できるという原則的な考え方で行きたいと思う。

校舎のセキュリティーシステムや物理的改修、動線変更も検討する。学校外施設利用については、既存団体や市民の理解に配慮し、慎重・丁寧に進めたい。

委員： 保護者への周知不足が不安を招いている。部活動地域展開は、部活動を今よりも活性化させるための施策であることを、もう少し前面に押し出すべきではないか。申請・認定団体は運動部中心だが文化部の方々からの意見や質問などがあれば、この場で共有していただきたい。

事務局： 吹奏楽部は楽器移動や音問題が課題である。中文連の会長や吹奏楽連盟、吹奏楽部の顧問の先生方とよりベターな形について協議中である。校舎利用が望ましいが改修等の様々な検討が必要なので、先生方や子どもたちの声に寄り添いながらやっていきたい。

委員： 吹奏楽部はまだ認定がほとんどないということか。

事務局： 現時点では、吹奏楽関係の地域クラブとしての申請はない。

委員： 学校の先生がこれからも地域クラブとして指導されていくという認識でよいか。

事務局： ほとんどが学校部活動のいわゆる保護者会が母体となっている。教員の顧問としての指導者が継続して指導しているところが多い。

他に、部活動に関わらない、新たに地域の一般の方が立ち上げた地域クラブもあるし、部活を持っていないが子どもたちのために指導者の研修を受けて指導者資格だけを持っている教員もいる。子どもたちの活動に尽力していただける方を多く募って、何とか子どもたちの活動の機会を確保していきたい。

委員： 幼稚園や小学校から続けてきた大好きな活動、運動とか文化芸術について、中学校の3年間の時期に失われていくようなことがないよう、地域展開をプラスに発信していただいて展開をお願いしたい。

委員： 生涯学習推進計画にしても部活動地域展開にしても、要望は多いが費用面から全てに対応するのは困難である。人口減少や非常に難しい時代の中で地域の皆さんが北九州に住みやすい、住みたくなるということで要望されているが、実施には優先順

位をつけてやっていくとか、シンプルに分かりやすく資料にまとめてほしい。

事務局： ご意見をしっかり踏まえまして、また議論を深めていきたい。

委員： 小学生と中学生の保護者で危機感の差がとても大きい。小学生の保護者は入学前に部活情報を知りたい者が多いが、中学生の保護者は今の流れに乗っているだけで周りにあまり発信しないと感じる。

認定クラブ一覧を区ごとにホームページ等で分かりやすく掲示してほしい。

事務局： 北九州市のホームページで地域クラブの一覧を掲載予定だったが、立ち上げ数が想定以上で掲載が追いついていない。早急に一覧を整理し公開したい。小学校高学年の保護者には通信等で丁寧に周知したい。

委員： 古賀市では2年前から検討し、今年4月から地域展開を開始している。教員の働き方改革が出発点であり、アンケートによると、部活を持ちたい教員は2～3割である。

北九州市ではまず休日から始めるが、古賀市では平日も地域展開している。古賀市ではクラブに入らない子の扱いも大きな課題であった。外部指導者の発掘が不可欠であり、授業の中でのクラブ活動を復活させ地域クラブに移行するようなこともやっている。

北九州市も平日を含めての部活動改革が将来進んでいくような展開、構想でいつていただきたい。

事務局： まずは休日の地域展開を定着させることが第一だと考える。平日は放課後の生徒移動・指導者確保・施設利用が課題になっている。国の改革実行期間に合わせて平日展開も検討していきたい。

議長： 休日の施設問題と地域の指導者の人材育成が課題である。学校教育と社会教育が連携して課題解決に取り組んで欲しい。